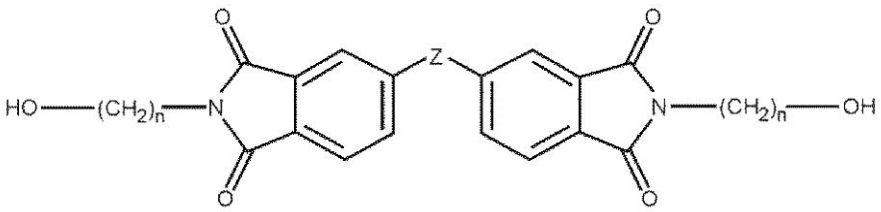
【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第３区分
【発行日】平成29年7月27日(2017.7.27)

【公表番号】特表2016-523297(P2016-523297A)
【公表日】平成28年8月8日(2016.8.8)
【年通号数】公開・登録公報2016-047
【出願番号】特願2016-520740(P2016-520740)
【国際特許分類】
Ｃ０８Ｇ　63/685　(2006.01)
Ｃ０８Ｊ　5/18　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ０８Ｇ　63/685
Ｃ０８Ｊ　5/18　ＣＦＤ

【手続補正書】
【提出日】平成29年6月16日(2017.6.16)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００６０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００６０】
【表７】
表6

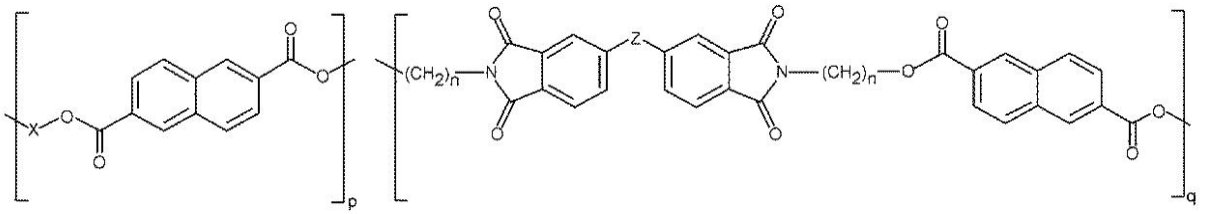
例	SSP前			SSP後		
	T_m (℃)	ΔH_m (Jg^{-1})	χ_c (%)	T_m (℃)	ΔH_m (Jg^{-1})	χ_c (%)
13: PETcoBTDI10	–	–	–	232	33.48	24
14: PENcoBTDI10	–	3.29	3	245	39.12	38

次に、本発明の好ましい態様を示す。
１．　脂肪族グリコール、芳香族ジカルボン酸及び式（Ｉ）
【化１】



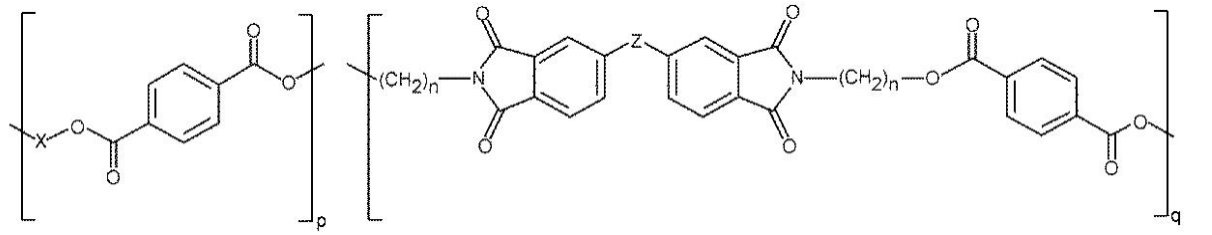
(I)
（式中、ｎ＝２、３又は４であり、Ｚは、Ｃ＝Ｏである）
のモノマーに由来する反復単位を含むコポリエステルを含む半結晶性二軸配向フィルムであって、コモノマー（Ｉ）が、コポリエステルのグリコール部分の一部を構成し、コポリエステルのグリコール部分の少なくとも約４ｍｏｌ％の量で存在する、フィルム。
２．　モノマー（Ｉ）がコポリエステルのグリコール部分の４ｍｏｌ％より多く、好ましくは少なくとも約５ｍｏｌ％又は５ｍｏｌ％より多い量で存在する、上記１に記載のフィルム。
３．　モノマー（Ｉ）がコポリエステルのグリコール部分の約２０ｍｏｌ％以下、好まし

くは約１５ｍｏｌ％以下の範囲で存在する、上記１に記載のフィルム。
４．　脂肪族グリコールがC_2、C_3又はC_4脂肪族ジオールから選択される、上記１から３までのいずれか１項に記載のフィルム。
５．　脂肪族グリコールがエチレングリコールである、上記１から４までのいずれか１項に記載のフィルム。
６．　脂肪族グリコールにおける炭素原子の数がコモノマー（Ｉ）における数（ｎ）と同じである、上記１から５までのいずれか１項に記載のフィルム。
７．　ｎ＝２である、上記１から６までのいずれか１項に記載のフィルム。
８．　芳香族ジカルボン酸がナフタレンジカルボン酸及びテレフタル酸から選択される、上記１から７までのいずれか１項に記載のフィルム。
９．　芳香族ジカルボン酸が２，６－ナフタレンジカルボン酸である、上記１から８までのいずれか１項に記載のフィルム。
１０．　コポリエステルが式（ＩＩＩ）を有する、上記１から１０までのいずれか１項に記載のフィルム。
【化２】



(III)

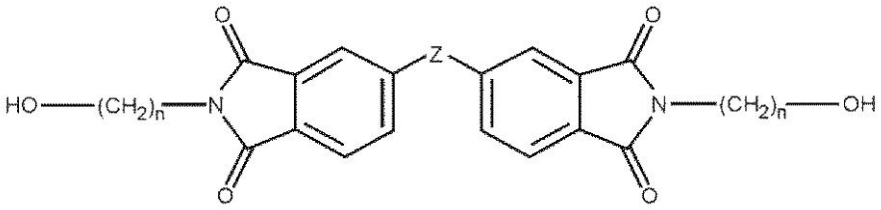
（式中、
基Ｘは、前記脂肪族グリコールの炭素鎖であり、
ｐ及びｑはそれぞれ、脂肪族グリコール含有反復エステル単位及びモノマー（Ｉ）含有反復エステル単位のモル分率である）
１１．　芳香族ジカルボン酸がテレフタル酸である、上記１から８までのいずれか１項に記載のフィルム。
１２．　芳香族ジカルボン酸がテレフタル酸であり、コポリエステルが式（ＩＶ）を有する、上記１から８までのいずれか１項に記載のフィルム。
【化３】



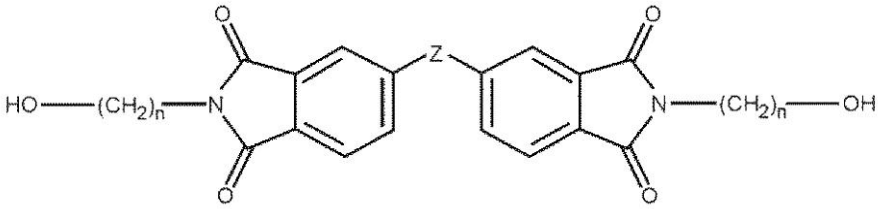
(IV)

（式中、
基Ｘは、前記脂肪族グリコールの炭素鎖であり、
ｐ及びｑはそれぞれ、脂肪族グリコール含有反復エステル単位及びモノマー（Ｉ）含有反復エステル単位のモル分率である）
１３．　前記芳香族ジカルボン酸がナフタレンジカルボン酸であり、フィルムの結晶化度が、フィルム密度から、０％結晶性ポリエチレンナフタレート（ＰＥＮ）の密度が１．３２５ｇ／ｃｍ^{3}であり、１００％結晶性ＰＥＮの密度が１．４０７ｇ／ｃｍ^{3}であることに基づいて計算されて、少なくとも約１０％である、又は前記芳香族ジカルボン酸がテレフタル酸であり、フィルムの結晶化度が、フィルム密度から、０％結晶性ポリエチレンテレフタレート（ＰＥＴ）の密度が１．３３５ｇ／ｃｍ^{3}であり、１００％結晶性ＰＥＴの密度が１．４５５ｇ／ｃｍ^{3}であることに基づいて計算されて、少なくとも約１０％である

、上記１から１２までのいずれか１項に記載のフィルム。
１４．　脂肪族グリコール、芳香族ジカルボン酸及び式（Ｉ）
【化４】



(I)
（式中、ｎ＝２、３又は４であり、Ｚは、Ｃ＝Ｏである）
のモノマーに由来する反復単位を含むコポリエステルであって、コモノマー（Ｉ）が、コポリエステルのグリコール部分の一部を構成し、コポリエステルのグリコール部分の約１～約５０ｍｏｌ％の範囲に存在し、前記芳香族ジカルボン酸がナフタレンジカルボン酸から選択され、且つ／又は前記コポリエステルが半結晶性である、コポリエステル。
１５．　半結晶性であり、少なくとも約５％、好ましくは少なくとも約１０％、好ましくは少なくとも約１５％、好ましくは少なくとも約２０％の結晶化度を示す、上記１４に記載のコポリエステル。
１６．　上記１から１０までのいずれか１項に定義されている、上記１４又は１５に記載のコポリエステル。
１７．　上記１４、１５又は１６に記載のコポリエステルを含む繊維又は成形用組成物又は成形品。
【手続補正２】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
脂肪族グリコール、芳香族ジカルボン酸及び式（Ｉ）
【化１】



(I)
（式中、ｎ＝２、３又は４であり、Ｚは、Ｃ＝Ｏである）
のモノマーに由来する反復単位を含むコポリエステルを含む半結晶性二軸配向フィルムであって、
コモノマー（Ｉ）が、コポリエステルのグリコール部分の一部を構成し、コポリエステルのグリコール部分の少なくとも約４ｍｏｌ％の量で存在し、
芳香族ジカルボン酸が２，６－ナフタレンジカルボン酸である、フィルム。
【請求項２】
フィルムの結晶化度が、フィルム密度から、０％結晶性ポリエチレンナフタレート（ＰＥＮ）の密度が１．３２５ｇ／ｃｍ^{3}であり、１００％結晶性ＰＥＮの密度が１．４０７ｇ／ｃｍ^{3}であることに基づいて計算されて、少なくとも約１０％である、請求項１に記載のフィルム。
【請求項３】

モノマー（Ｉ）がコポリエステルのグリコール部分の４ｍｏｌ％より多く、好ましくは少なくとも約５ｍｏｌ％又は５ｍｏｌ％より多い量で存在する、請求項１又は２に記載のフィルム。

【請求項４】

モノマー（Ｉ）がコポリエステルのグリコール部分の約２０ｍｏｌ％以下、好ましくは約１５ｍｏｌ％以下の範囲で存在する、請求項１、２又は３に記載のフィルム。

【請求項５】

脂肪族グリコールがC_2、C_3又はC_4脂肪族ジオールから選択される、請求項１から４までのいずれか１項に記載のフィルム。

【請求項６】

脂肪族グリコールがエチレングリコールである、請求項１から５までのいずれか１項に記載のフィルム。

【請求項７】

脂肪族グリコールにおける炭素原子の数がコモノマー（Ｉ）における数（ｎ）と同じである、請求項１から６までのいずれか１項に記載のフィルム。

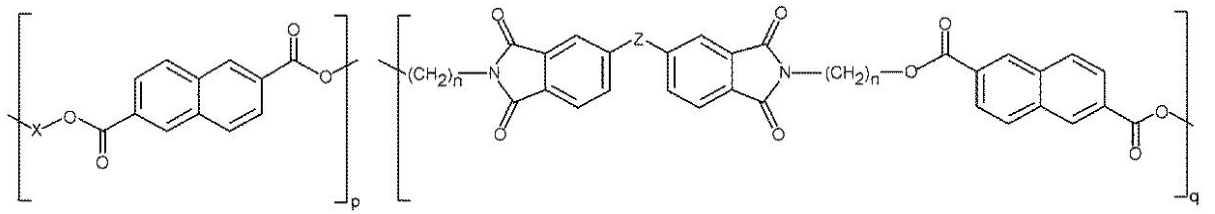
【請求項８】

ｎ＝２である、請求項１から７までのいずれか１項に記載のフィルム。

【請求項９】

コポリエステルが式（ＩＩＩ）を有する、請求項１から８までのいずれか１項に記載のフィルム。

【化２】



(III)

（式中、

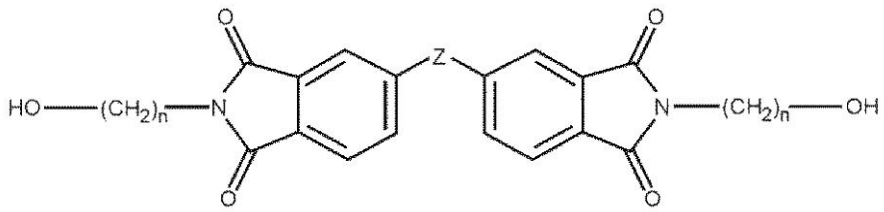
基Ｘは、前記脂肪族グリコールの炭素鎖であり、

ｐ及びｑはそれぞれ、脂肪族グリコール含有反復エステル単位及びモノマー（Ｉ）含有反復エステル単位のモル分率である）

【請求項１０】

脂肪族グリコール、芳香族ジカルボン酸及び式（Ｉ）

【化４】



(I)

（式中、ｎ＝２、３又は４であり、Ｚは、Ｃ＝Ｏである）

のモノマーに由来する反復単位を含むコポリエステルであって、コモノマー（Ｉ）が、コポリエステルのグリコール部分の一部を構成し、コポリエステルのグリコール部分の約４～約５０ｍｏｌ％の範囲に存在し、前記芳香族ジカルボン酸が２，６－ナフタレンジカルボン酸である、コポリエステル。

【請求項１１】

請求項１から９までのいずれか１項に定義されている、請求項１０に記載のコポリエステル。

【請求項１２】
半結晶性であり、少なくとも約５％、好ましくは少なくとも約１０％、好ましくは少なくとも約１５％、好ましくは少なくとも約２０％の結晶化度を示す、請求項１０又は１１に記載のコポリエステル。
【請求項１３】
請求項１０から１２までのいずれか１項に記載のコポリエステルを含む繊維又は成形用組成物又は成形品。